

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サンあぜかり1階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様を知ろうとする努力を行い信頼関係を結び御家族にも協力して頂きながら本人様の希望に添った生活を送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価の意義を理解し前向きに積極的に取り組んでいる。理念である「優しく・楽しく・元気よく」の言葉は、利用者の介護の中で実践していると共に職員自身も心がけている。地域との触れ合いにおいてはキャップ集めやダンボール回収のエコ活動を一緒に行い、支え合う関係作りをしている。地域小学校との交流や祭りの参加なども積極的に関わることによって、職員は本人や家族の意向や希望に耳を傾け添うように検討しながら支援している。母体が医療機関であるため、日々の体調管理や状況の変化による対応、職員の勉強などにおいて本人、家族が安心できる事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「優しく・楽しく・元気よく」には場所・人とわずに思いやりの気持ちを常に持ち、笑顔で接するという想いが込められている。	「優しく・楽しく・元気よく」という理念を各フロアに掲示常に意識できるようにしている。職員は日々利用者に接するときの表情や姿勢に活かしながらケアを行っている。ホームは地域住民と交流を持つときにも理念を活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収の協力や市民大清掃などに参加している。	自治会に加入している。ボトルキャップ・段ボール集めをお互いに提案し回収活動を行っている。日常から散歩時に挨拶を交わしたりしている。また、小学校や自治会で認知症についての話を行うなど地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の定期総会や小学校の総合学習に参加させて頂き、認知症の方々の理解を深める努力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及び御家族様に参加して頂き、施設の現状・行事報告など行い意見・要望など聞きながら活かしている。	今年度は参加メンバーの日程調節が取れず開催に至っていない。	参加メンバーの定期的な日程を確保を行うためにも、年間スケジュールを提案するなど開催の実現が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営の中で解らないことなどすぐに伺いを入れ情報収集行いながら連携を図っている。	すこやか支援課とは介護保健の更新時や家族からの介護相談などを代わりに行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方の対応など統一したケアが出来る様、ミーティング及び申し送りの確実性の再確認を行う。	身体拘束を行わないことを職員は周知している。研修に接遇を取り入れ、身体拘束だけでなく言葉遣いにも注意を払っており、職員同士でも随時意見交換を行っている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	気付きも含めヒヤリ・はっと提出状況を検討を行い、サービス内容の再確認を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修及び法人内研修会参加など行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所した際はご家族様へ1つ1つの項目を説明し確認して頂き同意のもと捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置し無記名にて記入して頂けるようにしている。重要事項説明書に外部の窓口の連絡先を明記している。	家族の訪問時に職員や管理者が話をする時間を設けている。遠方や訪問期間が空く家族には電話で定期的な連絡を入れて話をしている。今回は家族からピクニック場所の提案を受け、ペンギン水族館へ全員で出掛けるなど意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回テーマを決め施設内研修で意見など全体で考える場を設けている。	職員は月1回の全体会議や毎日の申し送り、日々の介護の中での気づき等を検討している。職員のオムツに関する質問からオムツの正しい利用方法をメーカーに依頼し指導を受けるなど意見を反映し取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成行いながら把握しており、日々の再確認行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成として研修記録を記入してもらい、悩みなど気軽に書いて頂ける様にして、管理者がコメントを返答しコミュニケーションを図っている。その他、施設内外の研修の案内、参加の呼び掛け行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加しており、施設外研修に参加した際に他の施設の方々と交流を持つ機会があり意見交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で関わりを持ちながら話を傾聴し、信頼関係・馴染の関係を築く努力を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に入所前の生活の話や悩まれていた情報を収集し今後のケアに役立てる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に面談を行い、その時に得た情報や生活歴を全職員で共有し関わりを図る際に役立てる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団の中での関わり以外に居室を訪問し話を傾聴するなどして本人様を知ろうとする努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様との要望と御家族様との意見の相違など多少あります。面会時に日々の生活状況を報告しながら、本人様にとって何が必要とされているか見い出す努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に本人様の馴染の物を持ってきて頂いたり、ご家族様の協力のもと外出や外泊など行っている。	家族の協力のもと、外出や外泊、電話でのやりとりを行っている。近隣のふれあい祭りの参加やカラオケ教室の仲間の訪問などがある。職員は利用者と馴染みの理容室や美容室への同行支援など、関係作りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がスムーズにコミュニケーション取れるように職員がクッション役になったりと配慮行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、本人様や御家族の希望があれば必要に応じて相談や情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にカンファレンスを開催し本人様や御家族の希望・意向についてサービス内容の検討を行い、少しでも本人様の願いが叶う支援を行う。	利用者は自ら意向や希望を出す方が多く、日常的に会話をする時間を多く持っている。発語困難な場合は、表情から汲み取ったり、声かけを行い反応を見ながら検討している。また、居室でゆっくりと会話をした中から意向を把握し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される前に事前に情報収集し、入所時に再確認を行い、その後は本人様と関わり持ちながら詳しい内容を把握し、より良い生活が送れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録とケアプランを基に1人1人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思伝達可能な方は本人様及び御家族の意向も盛り込みながら、職員1人1人の意見も反映しケアプランを作成している。	ケアプランは、短期3ヶ月、長期6ヶ月で本人、家族の希望を聞き見直ししている。変化や入退院後の変更は医師の指示の基に適宜行っている。カンファレンスをし、本人、家族の希望を取り入れ作成しているが、それぞれの希望が分かりづらい。	本人、家族の希望を聞いているが、長期目標の欄と重なっている。家族希望の欄を設け解りやすい介護計画を作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りをしながらケアプラン作成に役立てており過度なケアにならないように注意する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が遠方の方などの物品購入や行きつけの美容室や理髪店などにお連れしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民大清掃・廃品回収に出すダンボール集め、小学校との交流などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療機関の説明を行い本人様及びご家族様の要望もふまえながら適切な診察を行っている。夜間の緊急対応・指示も出して頂く。	入居時に母体である医療機関について説明を行い、変更への同意を家族から得ている。内科以外のかかりつけ医は継続しており、職員が付き添い家族へ報告している。夜間の緊急時対応や状況に応じた医師の指示がある等支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発時や体調の変化見られた時は母体である医療機関にへ絡し指示を伺いを入れる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの様子を記入した用紙と入院時の様子を記入した用紙で連携を行っている。(排泄・治療内容・食事摂取量など)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携を蜜に行い本人様の希望や苦痛の軽減など最善の方法を話し合いながら最善の方法を決めている。	看取りは母体である医療機関で行うことを基本としている。今後、希望に応じて事業所でも対応できるよう法人全体で取り組み始めたところである。重度化に向けた指針を作成し本人、家族にも説明し同意を得ている。月1回のミーティングなどでターミナルケア研修内容を報告、説明する等医師、職員が連携し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置などの研修会に参加している。昼夜問わず急変時には医療機関に連絡を行い指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。そのうち1回は消防署立会いのもと行っているが地震や災害時などの訓練としては行っていない。避難訓練の際は自治会の方にも参加して頂いている。	年2回夜間想定を含めた避難訓練をしている。その内1回は消防署立会いのもと自治会参加で行っている。又地域住民参加の訓練を現在計画中有である。災害時に備えての食糧品の確保においては、食品店と提携している。但し、自然災害訓練については行われていない。	火災や地震、災害はいつどのように起きるか解らないので、消防署立会のもと災害対策の具体的支援体制に取り組むことがのぞまれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを示し優しく心ある言葉掛けで接する様に心掛けている。	利用者に関する個人情報保護においては家族の同意を得ている。書類は特定の場所に保管、職員には守秘義務の徹底を図り、誓約書を得ている。介護中の言葉や声かけに検討すべき個所があり事業所自ら改善中である。ただし、汚物処理対応に配慮が必要である。	事業所自ら利用者への声掛けなどについて常に話し合う取り組みは今後も維持する事を期待したい。又、居室における汚物処理後の廃棄手順を再検討し、利用者の尊厳を損ねることのない支援となるよう期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にコミュニケーションを取りながら話を傾聴し本人様が希望を表したり自己決定出来るように問いかけるような声掛けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や1人1人のペースに合わせて本人様の意思を最優先にした生活を行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回美容師の訪問あり散髪を行っているが、行きつけの店を希望される方は御家族の協力を得ながら送迎の支援も行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや片付け等を職員と共に取り組むようにしている。(自分も参加しているという喜び、満足感を持って頂く。)	利用者は食事時には茶碗拭きや後片付け等を手伝っている。利用者個々に対応するために、個別に好みを聞き栄養士が献立を作成し、利用者が食べたい物を支援している。食事は毎食職員が手作りをして一緒に会話しながら食事をし楽しみながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事動作・嚥下状態・体調等を把握しながら1人1人に応じた食事形態・量を提供し必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア及び残渣物除去の確認を行い義歯は洗浄行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して行きながら間隔の把握や排便がスムーズに行えているか等の様子観察を行っている。(※座位保持行える方はトイレでの排泄を促しています。)	排泄チェック表にて個々の排泄パターンと共に、動作や表情で把握しながらトイレ誘導を行っている。車椅子の場合も日中は自立での排泄に心がけ、紙や布パンツにて支援している。誘導においては、さりげない声かけなどの配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を常に心掛け、個人記録にも記録を行っている。数日排便(3日)みられない時等協力病院(母体)に連絡し下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各フロアで曜日が違うが週に3回入浴を行っている。その日の気分や体調に合わせてなるべく希望の時間に入浴して頂いている。	基本的には各ユニット週3回の入浴日を設定しているが、利用者の希望で入浴時間や入浴日以外にも対応している。入浴時のシャンプー類は好みで使用している。入浴を拒む方はほとんどなく入浴日は楽しみにしている利用者が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後に関らず1人1人の体力に合わせて休息の時間を設け、無理なく過ごして頂ける様支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人台帳にファイリングし、職員各々が把握出来る様にしている。前日に薬のセッティング行い日付けの違いが無い様記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力の可能な限り手伝い(洗濯物たたみ・下ごしらえ・茶碗拭き等)行って頂き役割を持って頂く。気分転換に他のフロアへ遊びに行ったり外へドライブや散歩に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロアごとにドライブや買い物に出掛けたり、花見、ピクニック(弁当持参)おくんち、ランタンフェスタなどにも出向いている。	各ユニットで日々の散歩や買い物の声かけを行い、外出する機会を増やす努力をしている。花見やおくんち、ドライブ等の年間行事には合同で全員参加である。利用者や家族からの要望で外出や外食などにも出かけるなど外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の管理が出来る方は個別に買い物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所されご家族と疎遠にならないよう生活の様子を電話で伝えたり面会時に報告行っている。会話が出来る方など直接電話をして話をする事も行っている。(依頼があれば手紙の見直しも行っている。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有スペースでは室温や清潔にも心掛け気持ち良くゆっくり過ごして頂けるように配慮している。季節感のある環境整備なども工夫している。	共有空間は広く明るく清潔に保たれ、窓から見える景色は季節感があり、飾り付けの工夫もしている。ソファや畳、マッサージチェアなどが置かれ、利用者個々に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファを設け馴染の入居者様同士が交流行ったり、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れた家具・装飾品・茶碗類などを持参して頂き安心して過ごして頂けるように工夫している。	居室は本人の使い慣れたものや趣味の物が置かれており、利用者個々の個性が感じられる居室となっている。居室には専用のトイレがあるが、臭いもなく掃除が行き届いており、清潔感がある。広く、明るく居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴を収集し得意分野把握し個別に手伝い及び作業を行って頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サンあぜかり2階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会の総会・清掃や市民大清掃への参加や物品回収などに協力し、小学校との交流も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「優しく・楽しく・元気よく」には場所・人とわずに思いやりの気持ちを常に持ち、笑顔で接するという想いが込められている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収の協力や市民大清掃などに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の定期総会や小学校の総合学習に参加させて頂き、認知症の方々の理解を深める努力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者様・御家族様にも参加して頂き、施設の現状・行事報告など行い意見・要望など聞きながら活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営の中で解らないことなどすぐに伺いを入れ情報収集行いながら連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方の対応など統一したケアが出来る様、ミーティング及び申し送りの確実性の再確認を行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気付きも含めヒヤリ・はっと提出状況を検討を行い、サービス内容の再確認を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修及び法人内研修会参加など行っている。(現在活用している入居者様はいません)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所した際はキーパーソンに1つ1つの項目を説明し確認して頂き同意・捺印を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置し無記名にて記入して頂けるようにしている。重要事項説明書に外部の窓口の連絡先を明記している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回施設内研修でテーマを決めて意見伺いなど全体で考える場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成行いながら把握しており、日々の再確認行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成として研修記録を記入してもらい、悩みなど気軽に書いて頂ける様にして、管理者がコメントを返答しコミュニケーションを図っている。その他、施設内外の研修の案内、参加の呼び掛け行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加しており他のGHの関係者の方々と交流の場があり、施設外研修に参加した際には他の施設が行っている良いところなどは取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で関わりを持ちながら話を傾聴し、信頼関係及び馴染の関係を築く努力を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に入所前の生活の話や悩まれていた情報を収集し今後のケアに役立てる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に得た情報及び生活歴を各職員に情報提供し関わりを図る際に役立てる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団の中の関わり以外にも個別に居室を訪問し話を傾聴するなどして本人様を知ろうとする努力を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様との要望と御家族様との意見の相違など多少あります。面会時に日々の生活状況を報告しながら、本人様にとって何が必要とされているか見い出す努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の際に自宅で使用されていた馴染の品物を持参して頂くなどの配慮を行い、ご家族様の協力を頂きながら外出及び外泊なども行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の得意分野が発揮出来る様な工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、本人様や御家族の希望があれば必要に応じて相談や情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態の変化があれば緊急カンファを開催しサービス内容の検討を行う。少しでも本人様の願いが叶う支援を行う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前の情報収集及び再度入所時に確認を行い、その後は本人様と関わりながらより詳しい内容を把握し、より良い生活が送れる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録とケアプランを基に視点を置きながら1人1人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思伝達可能な方は本人様及び御家族の意向も盛り込みながら、職員1人1人の意見も反映しケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録・申し送りを行いながら次回プラン作成時に役立てており過度なケアにならないようにする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が県外の方などの物品購入や行きつけの美容室や理髪店などにお連れしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民大清掃・廃品回収に出すダンボール集め、小学校との交流などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療機関の説明を行い本人様及びご家族様の要望もふまえながら適切な診察を行っている。夜間の緊急対応・指示も出して頂く。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発及びいつもの様子が違った時など母体医療機関などに連絡し指示を伺い入れる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの様子を記入した用紙と入院時の様子を記入した用紙で連携を行っている。(排泄・治療内容・食事摂取量など)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携を蜜にしていきながら本人様の希望や苦痛などの軽減など最善の方法を話し合いながら方針を決めている。(終末期の方は現在いない。)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージ(AEDの使い方)応急処置などの研修会に参加している。夜間急変した際には母体医療機関に連絡を行い指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っているが、地震や災害時などの訓練としては行っていない。避難訓練の際は自治会の方にも参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を基に話題の提供を行い常に尊敬の気持ちを示し優しく心ある言葉で接する様に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にコミュニケーションを図りながら話を傾聴する。「～しましょうか？」と問う様な声掛けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態の把握を行い1人1人のペースに合わせた生活を支援している。(本人の意思を最優先している。)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回美容師が訪問し散髪を行っている が行きつけの店を希望される方は御家族の協力を得ながら送迎の支援も行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等を出来る方々と職員が共に準備に取り組むようにしている。(自分も参加しているという喜び、満足感を持って頂く。)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事動作・嚥下状態・体調等を把握しながら1人一人に応じた食事形態及び量を提供し必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア及び残渣物除去の確認を行うようにしており御家族に洗浄剤を購入して頂き義歯洗浄を行っている。(口腔ケアの研修会参加なども行っている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して行きながら間隔の把握や排便がスムーズに行えているか等の様子観察を行っている。(※座位保持行える方はトイレでの排泄を促しています。)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を常に心掛け、個人記録にも記録を行っている。数日排便(3日)みられない時等協力病院(母体)に連絡し下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。(各フロアで曜日が違う)その日の体調によりなるべく希望の時間に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体力に合わせて午前もしくは午後には休息の時間を設け、無理の無い様に過ごせる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に服薬の種類が記載されているものをファイリングを行い、職員各々が把握出来る様にしている。前日に薬のセッティングを行い日付けの違いが無い様記入っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力可能な限りお手伝い(洗濯物たたみ・下ごしらえ・茶碗拭き等)行って頂き役割を持って頂く。音楽や歌の好きな方には音楽を聴いたり歌ったりしてメリハリある生活を支援している。※散歩なども試みている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にドライブ(各フロアごと)に出掛けたり、花見、ピクニック(弁当持参)おくんち、ランタンフェスタなど祭事にも出向いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の管理が出来る方は個別に買い物に出掛けたりしている。(御家族管理が大半である)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の取り次ぎ及び御家族に電話を入れたりして、関わりを大切にしている。手紙は依頼があった際に見直し程度行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールで共有行う場所も常に清潔であるように心掛け、穏やかに過ごせる様に配慮行っている。季節感のある環境整備を工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースを設け馴染の入居者同士が交流行えるようにソファを置き、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着ある家具・装飾品・茶碗類などを持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴を収集し本人様の得意分野把握し個別に手伝い及び作業を行って頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サンあぜかり3階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族と協力しながら入居者様の希望に添えるような支援を行っている。 (外出や外泊支援・定期的な連絡など)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「優しく・楽しく・元気よく」には場所・人とわずに思いやりの気持ちを常に持ち、笑顔で接するという想いが込められている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収の協力や市民大清掃などに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の定期総会や小学校の総合学習に参加させて頂き、認知症の方々の理解を深める努力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者様・御家族様にも参加して頂き、施設の現状・行事報告など行い意見・要望など聞きながら活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営の中で解らないことなどすぐに伺いを入れ情報収集行いながら連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束を行わないようにしておりケアの行い方についても定期的にミーティング行い再確認しながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気付きも含めヒヤリ・はっとの提出を心掛け日頃から虐待のないよう言葉掛けや対応に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修及び法人内研修会参加など行っている。(現在活用している入居者様はいません)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所した際はキーパーソンに1つ1つの項目を説明し確認して頂き同意・捺印を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置したり、ご家族が面会に来られた際に一緒にお話しをさせて頂いており、その際に意見や要望をお伺いしている。 重要事項説明書に外部の窓口の連絡先を明記している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問や意見がある場合は毎日の申し送りで発言したり月1回施設内研修でテーマを決めて意見伺いなど全体で考える場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成行いながら把握しており、日々の再確認行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成として入社後オリエンテーション行い法人や医療・福祉について学び、研修記録を記入して頂きながら疑問や悩みがあれば書いてもらい管理者が返答している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加しており他のGHの関係者の方々と交流の場があり、施設外研修に参加した際には他の施設が行っている良いところなどは取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中でコミュニケーションを取りながら話をしっかり傾聴し信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に入所前の生活の話や悩まれていた情報を収集し今後のケアに役立てる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に得た情報及び生活歴を各職員に情報提供し関わりを図る際に役立てる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団の中の関わり以外にも個別に居室を訪問し話を傾聴するなどして本人様を知ろうとする努力を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様との要望と御家族様との意見の相違など多少あります。面会時に日々の生活状況を報告しながら、本人様にとって何が必要とされているか見い出す努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の際に自宅で使用されていた馴染の品物を持参して頂くなどの配慮を行い、ご家族様の協力を頂きながら外出及び外泊なども行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係把握し、1人1人孤立しないように職員が間に入り利用者同士が支えあい生活出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、本人様や御家族の希望があれば必要に応じて相談や情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様の希望に添えるようなケアを心掛け、状態が悪化した際はすぐにカンファレンスを行い、本人様らしい生活が出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報収集を行い、不明な点があれば本人様やご家族と関わりながら把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録とケアプランを基に視点を置きながら1人1人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思伝達可能な方は本人様及び御家族の意向も盛り込みながら、職員1人1人の意見も反映しケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、記録を残していき、申し送りなどで情報を共有しています。気づきや意見があればその都度報告し合い実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が県外の方などの物品購入や行きつけの美容室や理髪店などにお連れしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民大清掃・廃品回収に出すダンボール集め、小学校との交流などを行っている。 ホーム自体も子ども110番に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療機関の説明を行い本人様及びご家族様の要望もふまえながら適切な診察を行っている。疑問や不安に思うことがあれば主治医に連絡を取り病状説明行って頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や気づきなどあれば、その都度医療機関に連絡を取り指示を受けている。 看護師が訪問しているのでその都度近況報告など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの様子を記入した用紙と入院時の様子を記入した用紙で連携を行っている。 (排泄・治療内容・食事摂取量など) 不明な点があればその都度連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携を蜜にしていきながら本人様の希望や苦痛などの軽減など最善の方法を話し合いながら方針を決めている。 (終末期の方は現在いない。)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージ(AEDの使い方)応急処置などの研修会に参加している。夜間急変した際には母体医療機関に連絡を行い指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っているが、地震や災害時などの訓練としては行っていない。避難訓練の際は自治会の方にも参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持ち優しく心ある言葉で接する様に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取る際は本人様のお話を傾聴し、本人様が思いや希望を表したり自己決定しやすいように問う様な声掛けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員の都合に合わせるのではなく、入居者様のペースや希望を優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方は御家族の協力を得ながら理美容室の送迎の支援を行ったり、季節に合わせた洋服の組み合わせを一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等を出来る方々と職員が共に準備に取り組むようにしている。(自分も参加しているという喜び、満足感を持って頂く。)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事動作・嚥下状態・体調等を把握しながら1人一人に応じた食事形態及び量を提供し必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア及び残渣物除去の確認を行うようにしており御家族に洗浄剤を購入して頂き義歯洗浄を行っている。(口腔ケアの研修会参加なども行っている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックノートに記録を残して行きながら間隔の把握や排便がスムーズに行えているか等の様子観察を行っている。(※立位・座位保持行える方はトイレでの排泄を促しています。)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を心掛け、3日以上排便ない場合は協力病院(母体)に連絡し下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。その日の体調などを配慮しなるべく希望の時間に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体力に合わせて午前もしくは午後には休息の時間を設け、無理の無い様に過ごせる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬の処方箋をファイリング行い、職員が把握出来る様にしている。薬の管理を職医院が行いセッティングや日付けの違いが無い様記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かしたお手伝い(洗濯物たたみ・下ごしらえ・茶碗拭き等)行って頂き生活歴や力に合わせた役割を持って頂く。散歩や音楽鑑賞などの気分転換の支援も行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望の買い物や天気の良い日には散歩やドライブ・ピクニックに出掛けている。おくんちやランタンなどの祭事にも参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には小額の金銭を管理している。 買い物などに出掛けた際に本人が希望する物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の取り次ぎ及び御家族に電話を入れたりしている。手紙のやり取りも出来る方は支援しながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に光があり明るく常に清潔であるように心掛けいます。壁などには季節に合った物を飾りつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染の入居者同士が交流行えるようにソファや畳スペースを設けていたり、一人になりたい時は居室へ戻ったりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着ある家具・装飾品・茶碗類などを持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴を収集し本人様の得意分野把握し個別に手伝い及び作業を行って頂いている。		